

生活記録ノートの使い方「学力向上のための方策として」

【久喜市教育委員会】

ねらい

- ・このノートを活用し、家庭学習の充実と定着をはかる。
- ・学校生活を充実させるために、授業の準備や提出物の確認を密にする。
- ・家庭生活リズムの確立を目指して7つの点検項目を設定し、家庭生活の充実を図る。
- ・今日より明日といった常に前進する生活を目指すために日記を書かせ目標のある生活を送らせる。

具体的な取組方法

Callouts and instructions:

- 「当日の日付と曜日を記入する。」 (Record the date and day of the week.)
- 「当日の生活について評価する。」 (Evaluate the daily life.)
- 「一番左側にすべて○印が付ければ理想の家庭生活と判断」 (If all circles are filled on the far left, it is judged as ideal family life.)
- 「次の日の授業の教科と内容・準備するものを記入する。」 (Record the subject and content/preparation for the next day's class.)
- 「次の日の連絡・提出物・持ち物を記入する。」 (Record the contact, submission, and items for the next day.)
- 「当日、家庭で取り組んだ学習内容を記入する。(教科名と時間)」 (Record the learning content done at home today. (Subject name and time))
- 「該当するところに○印を付ける。」 (Put a circle in the appropriate place.)
- 「当日の出来事を記入する。」 (Record the events of the day.)

1	2	3	4	5	6
朝食を食べた	食べた	食べなかった			
身の回りの片付け	できた	だいたい	できなかった		
読書	1時間以上	1時間	30分		
家庭学習	2時間以上	1-2時間	1時間未満		
TV・ゲーム・PC	1時間未満	2時間未満	2時間以上		
夜寝た時間	10-11時	11-12時	12時以降		
連絡・提出物・持ち物	家庭学習				
ひとくち日記					

【共通理解事項】

- ・上記のように記入をする。
- ・家庭学習は下の余白を活用する。見開き以上はしない。学習内容は何でもよい。たとえば、漢字練習、計算問題・単語の書き取りなど。また、プリントを貼ってもよい。
- ・当初はできれば、宿題を学年で用意してもらいたい。30分～60分程度の内容でよい。
- ・担任等は次の日、朝の会にて回収し検印する。コメントは極力控える。ただし、日記についてはコメントを簡単にする。(励ましの文面)
- ・家庭学習ができた生徒には評価を行う。50回、100回・・・区切りのよい回数で表彰する。

【家庭学習の定着化】の取組

○状況（実態）

1. 埼玉県小・中学校学習状況調査「生徒質問紙」より

質問項目7「学校の授業時間以外に、1日どのくらい勉強しますか」

- ・「全くしない、ほとんどしない」「30分より少ない」「30分以上1時間より少ない」

平成23年度…20.5%, 16.4%, 14.8% (合計51, 7%)

(久喜市比較…12.9%, 12.8%, 20.2% 合計45, 9%)

(平成22年度…26.1%, 15.3%, 13.5% 合計54, 9%)

- ・「3時間以上する」

平成23年度…1.6%

(久喜市比較…3.1%)

(平成22年度…0.9%)

この結果から、本校生徒は4～5人に1人の割合で家庭学習を全くせず、半数以上が1時間未満しかやらない。また、3時間以上勉強する生徒は学年で1～2人しかいないなど、市内中学校生徒と比較しても家庭学習にかける時間が極端に少ないことがうかがえる。他に、校内独自で調査している「生活習慣アンケート」においても同様の結果がみられた。

本校生徒の学力向上対策は、これまで「基礎・基本的事項の確実な習得」をねらいに、全教科・領域で授業の改善を中核として取り組んできた。その成果として、「教育に関する3つの達成目標検証」（平成23年度）では、「読む・書く」が95.4%、「計算」が91.0%と年々向上している。そこで、さらなる学力向上策として、昨年度末の協議で「家庭学習の充実」をはかることが必要との結論に達し、本年より学校全体で取り組むこととした。

○取組の概要

1. 中学入学前に「課題学習プリント」を配布し、家庭学習の定着と習慣化をはかる。

6年生児童が卒業してから中学に入学するまでの期間、家庭学習の習慣を途絶えさせないため、また全員に習慣化をはかるねらいで取り組んだ。新入生入学説明会時（2月）に「課題学習プリント」を配布する。プリントは、入学後提出させるとともに、新入生テストを実施し学習の成果をみた。

2. 生活記録と家庭学習ノートを併せた新しい「生活記録ノート」を作成し実施する。

「生活記録ノート」は、これまで翌日の持ち物やその日一日を振り返っての記録を書き、毎日提出している。そこで、別紙のように見開き2ページの様式で、生活記録の欄と罫線の付いたノートスペースをつくり、この範囲内で家庭学習を行わせ翌日に提出させた。

実施にあたっては、学校全体の取り組みとし、全学年・クラスで時期を合わせ、年間4冊を上限に配布した。内容は各学年で検討し、課題プリントの配布や各自で課題を立てさせる等実態に合わせて行った。1日30分程度の量で無理せず、それでも毎日継続させる中から、全員に家庭学習の習慣をつけさせることを最大のねらいとして取り組んだ。

○取組の成果と今後の見通し

1. 埼玉県小・中学校学習状況調査「生徒質問紙」（上記同様調査）（2年生）

- ・「全くしない、ほとんどしない」「30分より少ない」「30分以上1時間より少ない」

平成24年度…13.6%, 14.8%, 18.2% (合計46, 6%)

(県比較…10.6%, 14.3%, 23.6% 合計48, 5%)

2. 全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」(3年生)

質問項目23「家で、自分で計画を立てて勉強をしますか」

・「している」「どちらかといえばしている」

平成24年度…21.1%, 29.3% (合計50, 4%)

(県比較…合計43, 8%)

家庭学習を取り入れた生活記録ノートの実施から、まだ1ヶ月も経たない時期の調査とはいえ、生徒自身が「している」実感をもっていることがうかがえる。また、1年生の生活習慣アンケートでは30分以上学習する生徒が76.9%いることも実施の成果が出ているといえる。

3. 「教育に関する3つの達成目標」の取り組みに係る効果の検証結果「学力」達成率(1年生)

・「全くしない、ほとんどしない」「30分より少ない」

平成24年度…2.7%, 9.1%, (合計11, 8%)

(平成23年度…18.4%, 20.7%, (合計39, 1%))

・「30分以上1時間より少ない」「1時間以上2時間より少ない」

平成24年度…18.2%, 47.3%, (合計65, 5%)

(平成23年度…18.4%, 25.3%, (合計43, 7%))

1月実施の調査により、とくに1年生において上記のとおり、成果がみられた。これまで4割の生徒が家庭学習をほとんど行っていなかったものが1割に減り、逆に30分以上から2時間行う割合が4割から7割近くに増えた。家庭学習を取り入れた生活記録ノートの趣旨は、「毎日30分以上家庭学習を行う」である。それでも、過度の負担をかけず継続的に行うこととすべての生徒に着実な取り組みを実施することを徹底したことで、生徒の意識にも学習への意識化がはかれたといえる。

今後の取り組みとしては、①現状の取り組みを継続し、当初のねらいの確実な達成に努めること、②生活記録ノートとは別に、自ら進んで家庭において学習する生徒の割合が70%を超えるようにすること、である。